

# 島根県現代俳句協会会報

第 45 号

令和3年3月15日



会長 月森遊子

## コロナ禍の中 当面の対応について

昨年は、新型コロナウイルス感染対応の三密などの指示により、諸会合が中止又は延期を余儀なくされ、当協会の通常総会も止むを得ず、紙上にての開催となりました。世情によるものとは言え、一抹の寂しさを禁じ得ません。

又、このような状況のもと中止が続いている句会もあり、日常生活の変化や、気力の薄れなど感じられている方もあろうと思いが、こういう時こそ逆な発想で、近所の風景や身辺の句材などで作句し、発表の機を探したいものです。

この意をもとに過去の実績などを考慮し、次の点について理解と協力をお願いしたい。

- 一. 今年の現俳中国大会（六月十三日～六月十四日 於鳥取市）への参加と投句。特に不参加者の投句を是非お願いしたい。
- （この大会は各県持回りであり、相互支援の意味もある。）

- 二. 現代俳句協会の月刊誌「現代俳句」の、「現代俳句の風」欄への投句。（毎年十二月募集）

- 三. 『現代俳句年鑑22』への参加について、協会より会員各位にお願いが有りました。

た。奮って参加してください。

- 四. 第58回現代俳句全国大会への作品の応募について、（大会は令和三年十月三十日 於東京）

終りに、コロナ禍の感染予防と一日も早い収束を願うと共に、会員各位のご健吟をお祈りします。

### 令和二年度 島根県現代俳句協会

#### 総会の結果

（紙上審議の結果）

会員数 十八（令二・一 現在）

返信数 十四

#### 第一号議案

令和元年度 事業報告と決算報告

承認する 十四

承認しない ○

#### 第二号議案

令和二年度 事業計画と予算（案）

承認する 十四

承認しない ○

その他の意見

特になし

第38回  
**中国地区現代俳句大会**

令和二年六月一四日～一五日  
広島センチュリーホテル

神野沙希先生を迎えて、広島センチュリーホテルで開催が予定されていた第三八回中国地区現代俳句大会は、コロナウィルス感染防止のため、会場に集っての大会は取り止めとなり、紙上俳句大会として実施されました。以下に、島根県関係者分を掲載します。

☆秀逸賞

夜桜を灯して人が消えてゆく 柏谷 千恵  
 大会作品抄(順不同)  
 帰る鳥婦らぬ鳥も一つ田に 伊藤 晃彦  
 マヌカンの冬帽目深沖遠し 安達美那子  
 背越しに声をもむ声寒夕焼 森田 廣  
 善玉か悪玉かあの新芽たち 野津あつし  
 白木蓮あすは空へ翔つだらう 柏谷 千恵  
 寒三日月死ぬ手前まで尖る 福田 玲子  
 競ふより従ふ余生冬木の芽 月森 遊子  
 一月の底錨の如く母のいる 梅津 博之  
 屋根裏の錆びゆく鉛鳥雲に 村上 和枝  
 啓蟄や母の荷造りはみ出せり 黒崎 柊二

☆勉強会高得点句賞

風止んで梅の香りが木にもどる 野津あつし  
 言い過ぎし身に纏いつく夜寒かな 野津あつし  
 探梅や峽をくすぐる水の音 月森 遊子  
 勉強会作品抄(順不同)  
 牡丹の槽に抱きつく炎かな 福田 玲子  
 小正月威鳥の逆さ吊り 梅津 博之  
 春一番個人情報盗まれし 黒崎 柊二  
 立春やふるさとの色溶かしをり 月森 遊子

お知らせ

第39回  
**中国地区現代俳句大会**

とき 令和3年6月13日(日)  
 ~6月14日(月)  
 ところ 鳥取市「白兔会館」  
 鳥取市末広温泉町  
 講演 対馬康子氏(現代俳句協会 副会長)  
 投句 大会句2句 1口(何口でも可)  
 投句料 1口 1,000円(投句に同封)  
 勉強会 2句(勉強会に参加予定者のみ)  
 締切 令和3年3月10日 必着  
 送付先 〒680-0863  
 鳥取市大覚寺133-109 岡みずき方  
 中国地区現代俳句大会 事務局  
 ☎(0857) 24-7630  
 出欠 投句用紙に記載する  
 会費 (1) 18,000円(宿泊・懇親会・朝食)  
 (2) 8,000円(懇親会のみ)

※コロナウィルスの感染状況により大会を開催しない場合があります。



令和二年度 諸家作品抄

(五十音順)

安 達 美那子

この道のほかに道なし冬櫛  
背ナ淋し朝夕おしどり見ておれば  
枕辺にメモ書きを置く師走かな

市 河 直 子

無花果や化粧ポーチに手りゅう弾  
ひいばのベレーに籠もるかじけ猫  
いかづちやピカソの習作を御覧

伊 藤 晃 彦

人ゆける方が社や十二月  
響かせるための手のひら師走空  
山茶花に通学のこと近づき来

梅 津 博 之

牡丹の冬芽の赤や潔し  
泥臭く生き魴鮒の面構  
何事も無きが如きや裸木の

柏 谷 千 恵

枯芒眉やわらかく灯しけり  
小鳥来る二重虹をくぐり抜け

こもり人と呼ばれ枇杷の花となる

勝 部 啓 子

ひとりごと露のとうからあふれ出す  
星月夜命を端においておく  
山鳩来て私の時間が動き出す

黒 崎 柊 二

ふるさとの景は人肌暮の秋  
受難日やこころ鎮める爛の酒  
平穏はいずこ強めの除夜の鐘

黒 崎 李 青 二

大歳や釘に掛けたる歯朶飾り  
冬日差し匠の技の鑿光る  
冬駆けの息づくところ大銀杏

蹴 衣

短日や卵を割く音ぶつり  
サモエドごと伸びるリードや芒原  
小夜時雨ヨウムひたすら囁し

月 森 遊 子

冬ざれや詩心の火種熾すべし  
綿虫や座せば声出す妣の椅子  
年暮るる遺影に託びる悔いもあり

野 津 あつし

包丁研ぐ指先にある秋思かな  
風を聴く櫓穂明日へ滅びゆく  
裸木に無数の本音ぶら下がる

深 田 絵

開け放つ窓へ山茶花こぼれくる  
名ばかりの庭をはぐくむ冬紅葉  
日めくりや千両実る風の実に

福 田 玲 子

冬暁秒針こくと身振いす  
銀杏散る早口言葉という遊び  
葉ぼたんや母の部屋から独り言

村 上 和 枝

お手玉の中は数珠玉母の声  
十月の無言電話のような雨  
俎を流す夕べや雁渡る

森 田 廣

秋茜足弱天狗面を脱ぐ  
一艘や加えず消さず鱗雲  
一片は前の世のわれ鱗雲

# 「現代俳句」抜粋

令和2年4月号から  
令和3年2月号まで

シリーズ薄墨桜

目次 翠静

コロナの街表情なくし夏に入る  
初夏一番コロナへ光の剣放つ  
巣ごもりや新樹へ実となる小鳥達

## 列島春秋

水鏡に漲っている朝桜	柏谷 千恵
満艦飾気合ひ不乱の權さばき	太田 亮
梅雨の蝶ことば少なし奥出雲	村上 和枝
湖北嶺を雲がゆき神が行く晩夏	黒崎李青二
鯉飛ぶや国来国来と呼びをれば	伊藤 晃彦
牛突の隠岐へ集まるいわし雲	月森 遊子
秋澄むや島の高みの行在所	伊藤 晃彦
両手にのせ神在月の朝の時間	森田 廣
日本海背負い鮫鱈吊されて	野津あつし
田の白鳥舗道横切るお正月	柏谷 千恵
宍道湖へ転げ回りし春一番	黒崎 柊二

## 現代俳句の風

木の芽雨紺屋鍼力屋唐傘屋	森田 廣
春惜しむ折り返し点なき砂丘	月森 遊子
蟬しぐれ小さな白布飛んだきり	森田 廣
秋灯盟友ことごとく先だてり	森田 廣

## 「絵」

七月 祀り	森田 廣
八月 DATTAN   天平の空	
九月 スサノオの風	
十月 IZUMO   夜明け前	
十一月 IZUMO   垂乳根	
十二月 IZUMO   天空の道	

## 会報他受贈深謝

各地区、各県より会報等贈呈いただき、ありがとうございます。お礼申し上げます。

「会費払込取扱票」を同封します。令和3年度の会費及び過年度分会費未納の方は、事務局宛に払い込みをお願いします。

(年会費は千円です)

## あとがき

畑の隅にふきのとうが芽を出しました。春の足音が近付いております。

昨年からのコロナ禍が一向に収まりません。国内でも一部でワクチン接種が始まりました。しかし、ワクチンの供給状況が不透明で、一般の希望者全員に行き渡るのには、まだまだ時間がかかりそうです。

とにかく一日も早い収束が待たれます。事務局として、初めて会報に取り組みました。何分にも不慣れで力不足のため、なかなか発行の段取りとならず、遅くなりましたことお詫び申し上げます。今後とも、何卒ご支援を宜しく申し上げます。(柊二)

島根県現代俳句協会会報 第45号  
令和3年3月15日発行

発行人 月森 遊子

発光所 島根県現代俳句協会  
〒690-0033  
松江市大庭町356-5

事務局 黒崎 柊二  
〒690-0855  
松江市浜佐田町926  
電話・FAX  
0852-36-8639